

身近な情報を実践活動に生かす特別活動

— 3年 学級生活の向上を目指した「工夫力レーダーチャート」の活用 —

名古屋市立H小学校

1 研究のねらい

私は、自ら学級をよりよくしていこうとする児童を育てたい。「自ら学級をよりよくしようとする」とは、生活上の諸問題を自分事として捉え、多様な他者と協働して、解決していこうとする児童の姿である。こうした児童を育てることは、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てることにつながると考えた。

本学級の係活動についてのアンケートの結果を見ると「係活動が好き」「自ら進んで取り組む」と答えた児童が多かった。しかし、実際には、多くの児童が決められた仕事の内容に取り組むことにとどまっていたり、一部の児童に仕事が偏っていたりする様子が見られる。また、係活動がマンネリ化し始めると、すぐに「つまらない」「また、これか」といった他人任せな発言が聞かれるなど、自分たちで学級をよりよくしていこうとする意識の低さを感じる。そのため、児童にとって、自分たちの力で学級生活を楽しく豊かにする創意工夫をした係活動になっていないことが明らかになってきた。

そこで、次の2点を重点に係活動の実践に取り組むことにした。

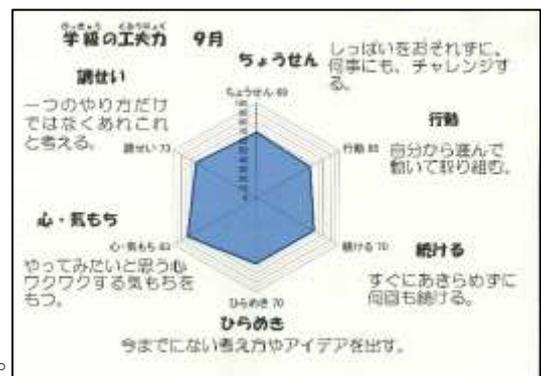
- ・学級生活の向上を目指した主体的な係活動とするために、創意工夫する力について理解を深める。
- ・創意工夫に着目した係活動の振り返りを行い、各係が強みや課題を意識して活動に取り組む。

2 研究の内容（対象：3年生33人【男子15人 女子18人】）

(1) 基本的な考え 創意工夫する力の理解を深めるために…「工夫力レーダーチャート」の活用

学級生活の向上を目指して、自分たちで係活動を創意工夫していく力を育みたい。しかし、創意工夫という言葉は漠然としている。そこで、まず1学期に、「創意工夫」とはどういうことかを児童に投げ掛け、出てきた考えを情報として集め、マッピングを活用して分類・整理する活動を行うことで、創意工夫についての理解を深めることにした。そして、児童と共に話し合い、「挑戦」「行動」「続ける」「ひらめき」「心・気持ち」「調整」の六つの要素にまとめて、「工夫力」とした。

2学期の係活動では統計的手法を活用し、工夫力をどれだけ達成できているのか、係ごとに活動を振り返り、数値化した結果を理由とともに「工夫力レーダーチャート」に表す。また、各係の工夫力の数値の平均から学級全体の工夫力を割り出し、学級の工夫力の状況も、数値化する。この「工夫力レーダーチャート」を活用して、各係が自分たちの強みと課題を考えたり、他の係の強みを生かしたりできれば、自分たちで係活動を工夫していくことができると考えた。そして、各係の工夫力の向上は、学級全体の工夫力の向上となって表れる。



このように、工夫力の各要素を意識的に高めることで、**創意工夫の要素をまとめた「工夫力レーダーチャート」**学級全体の工夫力がさらに高まり、自ら学級をよりよくしていくことにつながっていくと考える。

3年生の発達段階において、レーダーチャートを活用することは、平均や割合の学習など未学習事項もあるため、児童が表計算ソフトに数字を入力するだけで数値は自動計算されるようにしたり、強みと課題がはっきりするレーダーチャートの特徴を説明したりすることで配慮をしていく。

(2) 統計的な手法を活用した指導の流れ

流れ	活動の場	活動内容
とらえる	学級活動	2学期の係活動の様子を「工夫力」を基に振り返り、学級生活の向上を目指して、もっと創意工夫しようとする意欲をもつ。
あつめる	朝の会	「工夫力」として示した具体的な6要素についての達成度を数値化するアンケート調査を行う。
まとめる	休み時間	アンケート結果の数値を、表計算ソフトに入力して集計し、各係と学級全体の「工夫力レーダーチャート」を作成する。
よみとる	学級活動	「工夫力レーダーチャート」から、自分たちの係や学級全体の工夫力についての強みと課題を話し合う。
生かす	学級活動・帰りの会	「工夫力レーダーチャート」から読み取った自分たちの係の強みと課題を意識して、次の係活動を計画し、実践する。

(3) 実践の内容

ア 題材名 「『工夫力レーダーチャート』を生かして、もっと係活動を工夫しよう」

イ 目標

係ごとに自分たちや学級全体の工夫力の強みや課題を生かした活動計画を立て実践することで、学級全体の工夫力をさらに高め、自ら学級をよりよくしようとするができるようにする。

ウ 統計教育上の指導目標

「工夫力レーダーチャート」から、自分たちの係の強みと課題を考えたり、学級全体の工夫力の状況や他の係の強みに着目したりして、次の係活動に生かすことができるようにする。

エ 活動の実際

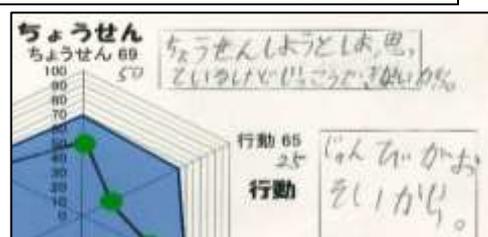
【とらえる】…学級活動 **係活動を振り返り、学級生活の向上を目指して創意工夫する意欲をもつ**

9月、児童は1学期に創り上げた工夫力を意識して2学期の係を立ち上げた。多くの係が有効に時間を活用し、これまで以上に多くの企画を計画し実践していた。しかし、自分たちが楽しむような活動がほとんどで、学級をよりよくしよう意識するまでには至っていないと感じた。そこで、係ごとに児童が集まり、自分たちの係活動の様子について話し合いを行った。すると、「企画にみんなが参加してくれない」「自分たちが楽しいだけかもしれない」という声が上がった。その原因を「工夫がまだ足りないから」と工夫力と関連付けて発言する児童もいた。

そこで、「どのような係活動にすれば学級の工夫力は高まり、よりよい学級にすることができるかな」と投げ掛け、係ごとに工夫力がどれくらい達成できているのかについてアンケート調査を行い、係ごとの達成度とそれを集計した学級の達成度を学級のみんなで確かめることになった。

【あつめる】…朝の会 **工夫力の6要素をどれくらい達成しているかについてアンケート調査を行う**

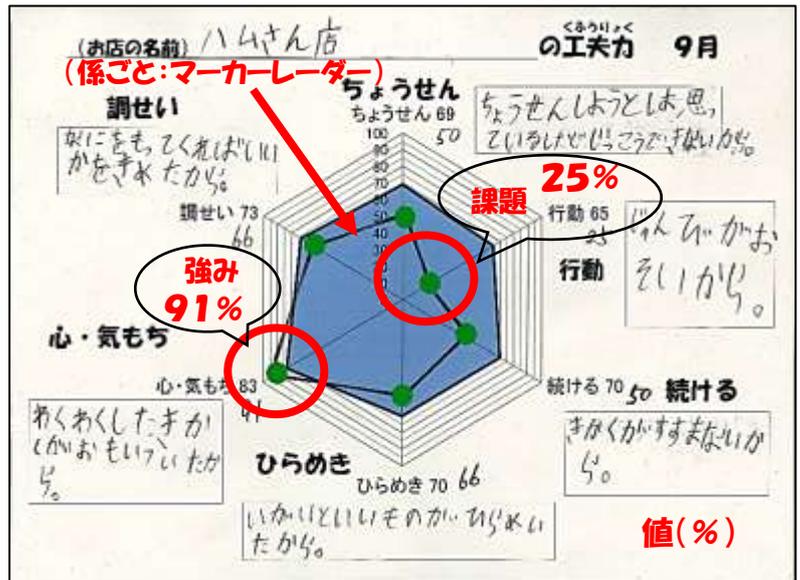
朝の会の時間に、工夫力がどれだけ達成できているのかをレーダーチャート上に示す「工夫力アンケート」を実施した。児童は係ごとに工夫力6要素（挑戦・行動・続ける・ひらめき・心、気持ち・調整）の達成度をそれぞれ振り返って数値を記入し、その理由も記述した。



お笑い・遊び係（ハムさん店）の記述

【まとめる】…休み時間 アンケート結果を集計し、「工夫力レーダーチャート」を作成する

続いて児童は、それぞれの係に分かれて工夫力の達成度を数値化し、集計した係ごとの工夫力レーダーチャートを作成した。数値の計算は、児童が工夫力の各要素を4段階で自己評価し、その点数を表計算ソフトにデータとして入力するようにした。タブレットを活用し、点数の合計が割合の数値となって出てくるように設定すると、右図のようなマーカーレーダーが完成した。さらに、全ての係の工夫力の数値を合計して、平均値



お笑い・遊び係（ハムさん店）の工夫力レーダーチャート（9月）

を算出し、学級全体の「工夫力レーダーチャート」（上の図、塗りつぶしレーダー）とした。こうして学級の工夫力の全体像の上に、係ごとの工夫力を載せた「工夫力レーダーチャート」が完成した。完成した各係のレーダーチャートは、タブレットのロイロノートスクールで全員の児童が閲覧して、全ての係のレーダーチャートを共有できるようにした。また、同時に掲示物として教室後方に掲示し、各係の工夫力の現状をいつでも把握できるようにした。

【よみとる】…学級活動 工夫力レーダーチャートを基に、自分たちの係や学級の強みと課題を話し合う

学級の工夫力の全体像の上に、係ごとの工夫力を載せた「工夫力レーダーチャート」を児童に配り、学級の工夫力の状況や他の係の様子と自分たちの係の工夫力の強みや課題を比較して、学級の工夫力を高めるために各係ができることを考えてみようとして投げ掛けた。すると、次のような発言が見られた。（以下の内容は、お笑い・遊び係（ハムさん店）の話合いの様子）

- C1: 学級の工夫力は、だいたい同じくらいだけど、みんな楽しいことが好きだし、わくわくすることをしたいと思っているから「心・気持ち」は特に高いと思います。ぼくたちの係は、学級と比べると、「心・気持ち」は高いです。だけど、それ以外は全部低いです。
- T: どうして、この係の「心・気持ち」は高く、「行動」とか他の要素は低かったのかな？
- C2: わくわくする企画を思い付いたし、意外にいいことをひらめいたと思うから、「心・気持ち」は高いと思います。でも、準備が遅いし、挑戦しようと思うけど、実行はできていないから、企画は進まないの低いと思います。
- T: 他の係のレーダーチャートを見て、自分たちの係に生かせるところはないかな。
- C2: イラスト新聞係は、自分たちで役割を決めて活動しているので、「行動」が高いです。
- C3: カレンダー係も一人ではなく、みんなで相談して企画を進めているから「行動」が高いです。
- T: 自分たちは課題だと思っているところが強みの係もあるね。他の係を参考にしながら、自分たちの係がこれから意識して取り組みたい工夫力の要素は何かな。
- C1: カレンダー係の「みんなで役割分担をする」という考えを参考にしたいです。自分たちの「行動」を伸ばすために、一人で勝手に企画を進めないことを意識して取り組みたいです。

【生かす】… 工夫力の強みと課題を意識して、次の係活動を計画し実践する

各係が工夫力を生かしながら学級生活の向上を目指して、係発表会の出し物の計画を話し合った。お笑い・遊び係では、「ブラックボックス」という出し物を考えた。「自分たちはわくわくする『心・気持ち』は高い、それを行動につなげることが課題だから、係の仲間と役割を分担して、『行動』を高めたい」と発言し、具体的な活動計画や役割分担を話し合った。「ブラックボックスに入れるものは、私が持ってくるよ」「ぼくは看板を作るよ」と役割分担しながら活動する姿が見られた。

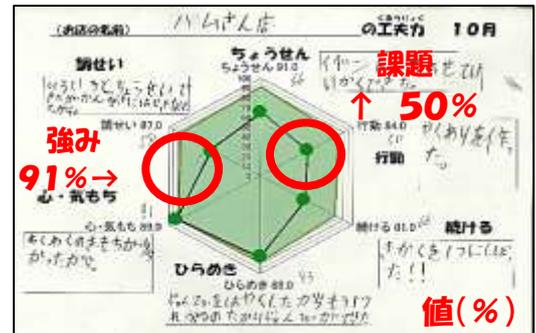
本番は準備をしてきた出し物を係ごとに披露して、学級には笑顔があふれた。集会後にもう一度、工夫力アンケートを集計した。活動前と比べ、どの係もそれぞれが高めたいと考えていた工夫力の要素が高まり、学級の工夫力の全体像も大きく高まった。「自分たちの課題だった『行動』は、みんなで協力しながら準備して高まった」「気付いたら『続ける』や『ひらめき』も高まった」と発言もあり、自分たちの工夫力が総合的に高まったことを実感している様子だった。



「ブラックボックス」を楽しむ児童

(4) 成果と課題(○:成果 ●:課題)

右の資料は、10月末に作成したお笑い・遊び係の「工夫力レーダーチャート」である。9月頃は低かった「行動」や「続ける」といった要素が向上し、学級全体の平均を超えている要素も増えてきた。このような実態から、本実践の成果と課題を次のように捉えた。



お笑い・遊び係の工夫力レーダーチャート(10月末)

- 「工夫力レーダーチャート」を活用することで、自分たちの強みと課題を的確に把握することができ、各係が課題を克服しようと工夫して活動しようとする姿が見られるようになった。
- タブレットを使って、係ごとの「工夫力レーダーチャート」を児童が共有することができるようにしたことで、他の係の強みにも着目し、課題を克服するための方法を学ぶことができた。
- 学級全体の「工夫力レーダーチャート」と比較しながら、各係がそれぞれの課題を捉えて活動するようになり、学級全体の工夫力の向上につなげ、よりよい学級づくりへの意識も高まった。
- 学級と係の比較、係と係の比較、自分たちの係の変容など、「工夫力レーダーチャート」にすることで読み取りは広がるが、レーダーチャートを作成するのに時間がかかってしまった。

3 研究のまとめ

今回の実践を通して、統計的手法を用いることは、児童が進んで自分たちの工夫力の強みや課題を発見し、その解決方法を仲間と考え、協力して活動するのに有効であることが分かった。お笑い・遊び係以外にも、新聞係は以前、「みんなが新聞を読んでくれない」と言っていたが、実践後は「みんなが楽しく読めるように、取材をします」「図書係とコラボをして、4コマ漫画を入れます」と取材班、イラスト班のように、係の中に部署を作り役割分担するなど、さまざまな工夫を凝らして進んで活動していた。このように、学級生活の向上を目指し、自分たちで係活動を創意工夫していく児童の姿がたくさん見られるようになり、学級全体のレーダーチャートは、現在、さらに広がりを見せている。今後も統計的手法を効果的に用いて、自ら学級をよりよくしていこうとする児童を育てていきたい。